

3 月 9 日（木）開幕 本展のための新作を一挙に公開します！

特別展「跳躍するつくり手たち：

人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」

京都市京セラ美術館では、2023 年 3 月 9 日（木）から 6 月 4 日（日）まで、監修者にデザインキュレーターでジャーナリストの川上典李子氏（かわかみのりこ／武蔵野美術大学客員教授）を迎え、特別展「跳躍するつくり手たち：人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」を開催します。本展は、京都市京セラ美術館がリニューアル以降初めて、現代デザインの動向を意識し、広く「つくる」ことのあり方を探る展覧会です。アート、デザイン分野において、京都をはじめ国内外で活躍する気鋭の 20 人・組による作品を通して、激動の時代の先を見通した、今に求められる人の創造の力を再考するものです。



TAKT PROJECT

京都市京セラ美術館 特別展「跳躍するつくり手たち：人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」展示風景
撮影：来田猛

■「跳躍するつくり手たち」のここに注目！

- 地球環境への意識の高まりやテクノロジーの進化など、人間社会のあり方が大きく変化する現代を生きる話題の 20 作家（個人・チーム）。1970 年代、1980 年代生まれを中心に選出。
- 16 作家（個人・チーム）が、本展開催にあたり新作や新しいインスタレーションを披露。
 - 細尾、公長齋小菅、中川木工芸、開化堂、金網つじ、朝日焼の未来を担う京都の 6 名から成る「GO

ON」は新作「100年先にある修繕工房」を初公開。

- 100年後、茶筒を持って宇宙旅行？ 八木隆裕(開化堂) + 石橋 素・柳澤知明(ライゾマティクス) + 三田真一の初めてのタグが実現。
- A-POC ABLE ISSEY MIYAKE は、京都の手捺染技術を取り入れた最新コレクションを紹介。
- 当館の日本庭園にも建築家・美術家の佐野文彦の新作3点が登場。
- 国際的なデザイン賞にも輝く TAKT PROJECT の最新プロジェクトを紹介。会期中に成長する作品も。
- ニューヨーク在住のデザイナー・田村奈穂の静謐に包まれたインスタレーションを日本初公開。

■出品作家 20 名 (組)

本展のための新作や新しいインスタレーションを多数展示します。 ●=新作を含む作家

セクション01 ダイアログ：大地との対話からのはじまり

1. 津守秀憲 (ガラス造形作家) ● 「胎動」シリーズより、「存在の痕跡」シリーズより
2. 中川周士 (木工職人) ● 「Born Planets」シリーズより
3. 田上真也 (陶芸作家) ● 《殻纏フ 溢ルル空》(本展のためのインスタレーション)
4. 石塚源太 (美術家) ● 《感触の表裏 #29》、《Taxis Groove》
5. 西中千人 (ガラス造形作家) ● 《呼継「焔躍ル」》(本展のためのインスタレーション)
6. 長谷川 絢 (美術家) ● 《君抵梧(君)》、《君抵梧(抵)》、《君抵梧(梧)》

セクション02 インサイト：思索から生まれ出るもの

1. 岩崎貴宏 (アーティスト) ● 《Out of Disorder (Layer and Folding)》、《アントロボセン》
2. 目 [mé](荒神明香、南川憲二、増井宏文を中心に構成される現代アートチーム)
《アクリルガス T-2M#7》、《アクリルガス T-2M#16》ほか
3. 井上隆夫 (アーティスト) ● 《ブロークンチューリップの塔》、《いくつかの@》
4. 高橋賢悟 (美術家) 《Re: pray》、《flower funeral -cattle-》、《flower funeral -deer-》
5. 佐野文彦 (建築家/美術家) ● 《集い合わさるもの》
6. 長谷川寛示 (彫刻家) 《Koka Kola》
7. 横山隆平 (写真家) 「WALL crack」シリーズより、長谷川寛示+横山隆平「WALL crack & weed」シリーズより
8. 林 響太郎 (映像監督/写真家) ● 《つくり手たちのすがたカタチ》

セクション03 ラボラトリー：100年前と100年後をつなぎ、問う

1. 細尾真孝 (クリエイティブ・ディレクター) + 平川紀道 (アーティスト) + 巴山竜来 (数学者) ●
「QUASICRYSTAL-コードによる織物の探求」シリーズより
2. 八木隆裕 (開化堂ディレクター) + 石橋 素・柳澤知明 (ライゾマティクス) + 三田真一
(クリエイティブ・ディレクター) ● 《Newton's Lid》
3. GO ON (細尾真孝、八木隆裕、中川周士、松林豊斎、辻 徹、小菅達之) ● 《100年先にある修繕工房》

セクション04 リサーチ&メッセージ：未来を探るつくり手の現在進行形

1. TAKT PROJECT (吉泉 聡を代表とするデザインスタジオ) ●
《glow ⇄ grow: globe》2023年バージョン、《black blank》、《フィールドノート：東北リサーチ》
2. A-POC ABLE ISSEY MIYAKE (宮前義之率いるエンジニアリングチーム) ● 《TYPE-II 004》
3. 田村奈穂 (デザイナー) ● 《フロート》(本展のためのインスタレーション)

■展覧会カタログ

論考に加え、作品解説や参加作家からのコメントなど充実の内容です。

論考執筆：川上典李子 (本展監修者)

福岡伸一 (生物学者、青山学院大学教授)

ベアトリス・ケット (パリ装飾美術館)

作品解説：川上典李子および京都市京セラ美術館

言語：日本語・英語 価格：2,700円 (税込 2,970円)

デザイン：野間真吾 (NOMA Inc.) 判型：A5 変型 (192ページ)

発行：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、美術出版社書籍編集部

発売：株式会社美術出版社 発売日：2023年3月9日



■オリジナルグッズ

展覧会オリジナルトートバッグのほか、多数の参加アーティスト関連グッズをミュージアムショップ「ART RECTANGLE KYOTO (アートレクタングル京都)」で販売いたします。

オリジナルトートバッグ 900円 (税込 990円)



■「跳躍するつくり手たち」開幕記念 特別プレゼント

展覧会の開幕を記念し、3月9日(木)～4月9日(日)の間、毎日先着200名様(お一人様一枚限り)にオリジナルステッカー(非売品)をプレゼント。

デザイン：野間真吾 (NOMA Inc.) サイズ：60mm×68mm



■関連プログラム

本展会期中、トークプログラムなど様々な関連プログラムを開催予定です。決まり次第、美術館ウェブサイトにてお知らせします。

https://kyotocity-kyocera.museum/exhibition/20230309-20230604#tab_cont04

■開催概要

名称：特別展「跳躍するつくり手たち：人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー」

Special Exhibition “Visionaries: Making Another Perspective”

会期：2023年3月9日（木）～6月4日（日）

会場：京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ

開館時間：10:00～18:00（最終入場は 17:30） 休館日：月曜日（祝日の場合は開館）

主催：京都市、京都新聞、日本経済新聞社

監修：川上典李子 企画：京都市京セラ美術館、川上典李子、米山佳子

協賛：株式会社マツシマホールディングス、NISSHA 株式会社、一般財団法人 NISSHA 財団

料金：一般：1,800（1,600）円 大学・専門学校生：1,500（1,300）円

高校・中学生：1,100円（900円）小学生：600円（400円）未就学児無料

※（ ）内は前売、20名以上の団体料金 ※京都市内に在住・通学の小中学生は無料 ※障害者手帳等ご提示の方は本人及び介護者1名無料（学生証、障害者手帳等確認できるものをご持参ください）

※チケット販売場所：美術館公式オンラインチケット、ART PASS、チケットぴあ、ローソンチケットほか主要プレイガイドなど

本展に関するプレスリリース（2022年10月11日発信）も併せてご覧ください。

https://kyotocity-kyocera.museum/wp-content/uploads/pressrelease_chouyaku_221011.pdf

【本展のプレス問合せ先】

京都市京セラ美術館 広報 勝治・川口 pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271